

# ★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

258号

★ 2023年4月30日



常盤台の景観を守る会  
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

## — 都心低空飛行問題について —

### ○ 統一地方選挙低調のまま 女性の数も少ないまま

政治の世界に女性の視点が反映されていない後進国の日本。少しずつでも改革していくべき選挙のチャンスを今回もまた逸しています。

平均20%台というこの情けない状態を改善するには、女性は女性候補に入れるよう努力し、男性の中でも先進国並みを目指す心のあるひとはやはり女性候補を応援していくしかないでしょう。

### ○ 飛行機の都心上空定期飛行 人権軽視の現われ 慣らされる都民

久しぶりに遊びに来た知人が、3時から始まるC滑走路への飛行機を目視し、騒音を聞き、ひどいね！と一言。常盤台の私たちは慣らされてしまっていると愕然としました。こんな危険な計画を建てた人達には人権尊重という最も大事な価値観に欠けていたとしか思えません。

### ○ 児童遊園にサクラの苗木？

1丁目の児童遊園はサクラの古木が数本あって、お花見のころは中々きれいですが、二本のサクラの苗木を植えた人がいたそうです。区から？撤去しますと貼り紙があったとご近所の話なので、その後どうなっているか確認すると、一本のしだれ桜の苗木が隅に植えられていましたが、もうすっかり枯れているようでした。

区に無届けで植えたとしたら撤去されてしまうのかもしれませんが、あそこにしだれ桜をと  
言う気持はよくわかります。

### ○ バザー無事終了

23日(日)の統一地方選挙の日、いつもの小学校前のKさんのガレージをお借りして、常盤台の景観を守る会のバザーを行いました。

最近メルカリや百均のような低価格の物が身近に手に入るようになり、バザーの意味が薄れているかも知れません。27日に反省会をして継続について以下の意見が出ました。

- ・断捨離や遺品整理などで棄てるには忍びない、勿体ないと言う思いの人も多い。
- ・街の人との交流の場となっている。
- ・ニュースの紙代も値上がりしているので貴重な財源となっている。
- ・はなづくりの会のマーマレードの売り場として必要。

特に問題なのは売れ残りの食器が多かったことで、食器を出された方に電話して引き取りに来て頂きました。初めてのことで本当に申し訳なく思います。

また、衣料品は季節感により可愛い子供服も冬向きだと全く売れず、選挙日での開催がまずいのではないかということになりました。

春と秋に定期的に行うことも検討します。

### ○ 天祖神社150周年の展示

南口の天祖神社が150周年を迎え、神社の歴史を展示していました。かつて南口銀座通りにまで伸びていた参道のジオラマや、昔の写真などが境内近くの「杜のまちや」の2階で展示されていました。

### ○ 学生の論文を分析(裏面1・2段)

自身の卒業論文を常盤台のまちづくりについて書いたW・Tさんが連載します。

## 常盤台に対する外部からの視点①

学生論文を通して

先日、横浜市立大学の学生が「東京のしやれた街並み推進条例」に関する卒業論文を作成しました。私たちの住む常盤台住宅地は一九九〇年代から今まで、様々なまちづくりに関するテーマの論文で取り上げられています。

いったいなぜ、常盤台住宅地は世代を超え多くの論文に取り上げられるのでしょうか。簡単にまとめたいと思います。

### 代表的な研究の内容

・早坂氏は、常盤台住宅地の敷地変化に伴う景観保全活動の実態について景観保全のルール作りの要点を明らかにしました。  
・上園氏は、東京都の高級住宅地の敷地変化について、田園調布と成城、常盤台の土地利用の変化について詳細を明らかにしました。

・大橋氏らはクルドサックやプロムナードの特徴や、それらの住民による維持管理方法を明らかにしました。

・阿南氏は昭和期を中心に常盤台住宅地の住民活動の意義を明らかにしました。  
・劉氏は常盤台住宅地における住民主体の景観ガイドラインの性質と効力を明らかにしました。

これらの論文は常盤台の景観を守る会HP（表面に記載）に取りまとめられてあります。非常に面白い論文ですので、興味がある方はぜひご覧になってくださいね。

## 常盤台の特徴？

取り上げられたテーマを分解すると「クルドサック・プロムナード」「住民活動」「敷地変化」「土地利用」「景観保全」などの単語が見られます。これらは常盤台住宅地の特徴や問題について論文に取り上げられるようなテーマです。

前者の「クルドサック・プロムナード」「住民活動」は常盤台住宅地が東武鉄道によって開発された初期の頃からありました。後者の「敷地変化」「土地利用」「景観保全」は時代の変化と共に現れました。順にどのような視点で研究されたのかまとめていきます。

### 常盤台住宅地の空間

ご存じの方も多いかと思いますが、常盤台住宅地は、設計は当時内務省の小宮賢一で一九三六年に東武鉄道によって分譲された住宅地です。クルドサックやプロムナード、ロードベイといった空間から構成されています。

このような特徴的な公共空間のある街で生活する住民には、何かしらの影響があるのではないかと。といった視点で研究を行ったのが大橋氏らです。

論文では「当時なされた公共空間の設計が現在でも住民の意識や行為に影響を与えており、それに伴いコミュニケーションまで間接的に影響を与えていると言えるのではないだろうか。」としています。

次回は「住民活動」から各テーマの視点を確認していききたいと思います。 W・T

## 常盤台公園のはなづくり

年々花どきが早まっていますが、今年は特に季節の前倒しが顕著です。

サクラも早かったし、バラがもう盛りを迎えようとしています。十年も前は五月十日過ぎの母の日あたりが満開だったのに。

この時期、日射しが強かったり、風がひどかったりすると、大輪のバラは水分を失って午後には萎れてしまうのが可哀想です。

常盤台に皇帝ダリアが見えなくなったという記事に対して、Hさんからご自宅に咲いているとお知らせがあり、更に公園用にと苗を頂きました。あまり気にしないで大丈夫とのことでしたが、夜間の照明のある所では花が咲かないそうなので、Kさんは何処に植えようかと頭をひねっています。冬にとっても美しい花を見せてくれるので楽しみです。

花壇のチューリップも終わりました。間に植えたピオラやパンジーのなごりを、去年、花束にして道行く人に差し上げました。今年も六月上旬の花苗の植え付け時少し前、五月三〇三十一日頃に差し上げようと思います。

同じく角のクリスマスローズも、SさんやTさんが五月の連休辺りに、花束にして差し上げていました。花時が長く、ドライフラワーにしても持つ花です。

